

木馬いのちーわが家に木馬あり
宮坂静生

踊り場に木馬の一基黙する秋
たてがみの毛糸温とし木馬の眸
頷くがいのち木馬のあたたかし
木馬の名いともごんべい受験子よ
愛されし木馬束の間陽炎へり
木馬の夏流線形の身がひかり



虫の音に木馬泪目真暗がり
馬追や木馬嘶く術知らず
木馬見よ初冠雪の白馬岳
馬布の地の赤き天鷲絨木馬の冬
死を思へ・生を思へ木馬の冬
捨てられしか愛されしか木馬の春
いのちなき木馬に永遠の春の貌

